

令和5年（2023年）度

事業計画書

自 令和5年（2023年）4月1日

至 令和6年（2024年）3月31日

公益財団法人 アジア学生文化協会

令和5年(2023年)度

事業計画

(2023年4月1日より2024年3月31日まで)

公益財団法人 アジア学生文化協会

1. 公益目的事業

日本とアジア諸国等の青年学生に対する国際相互理解の促進に関する事業

ア. アジア文化会館・学生寮運営事業(令和5年度予算額 88,026 千円)

日本人学生と外国人留学生のための共同学生寮を建設するため1957年に(財)アジア学生文化協会が設立され、1960年にアジア文化会館竣工と同時にアジアの青年学生の受入れを行なっている。留学生の宿舎事情は近年改善の兆しはあるものの、日本語もままならない留学生の日本での宿舎探しはいつの時代も容易ではない。そのような外国人留学生に対し、安価で安心できる宿舎を提供することは、我が国の留学生政策にとっても必要不可欠の要素である。

宿舎に入寮する来日間もない外国人留学生に対しては、各国からの学生が共同生活を送る宿舎での生活のルールと同時に日本の生活環境へ適応するためのオリエンテーションを実施している。これは長期間に亘り日本滞在が予定される留学生に、日本でトラブルなく生活していけるよう、教育的見地から行っている。

当協会で設置する学生宿舎は、「住居」であると同時に、共同生活を通じて人間的交流を深め、国籍、民族、宗教を超えて友情を育むという「教育目的」も合わせ持っている。そのため外国人留学生の他、日本人学生もアジアの青年の一員として受け入れ、自治的活動を行い、定期的なミーティングや学習会を開催している。また、各寮には職員を配し、日常生活や交流活動のフォローに当たっている。寮祭の地域住民との交流、地元地域の夏祭りへの参加、ボランティア団体との連携など交流活動に積極的に取り組むなど、当事業により国際交流、相互理解を促進し、多文化共生の社会づくりに貢献している。

当協会の設置する学生寮の概要は以下の通りである。

● 共同学寮(アソシエイト寮)

アジア青年学生による共同生活及び自主的活動を通じた人格形成の場として学寮の設置運営。

(各施設の詳細)

	施設名	定員 (所在地)	部屋代
1	アジア文化会館(Aフロア)	6名(男女)(文京区)	38,000円
2	新星学寮	14名(男女)(文京区)	37,000円
計	2施設	20名	

● 留学生寮(レジデント寮)

留学生が安定して勉学生活を送るための学生宿舎の提供。日本での生活を安全にトラブルなく送れるよう、行政手続等の指導、サポートや文化、慣習、生活等のオリエンテーションを実施。

(各施設の詳細)

	施設名	定員 (所在地)	部屋代
1	アジア文化会館(Rフロア)	133名(男女)(文京区)	25,000円~58,000円
2	染井ハイツ	26名(男女)(豊島区)	25,000円~75,000円
計	2施設	159名	

● 新型コロナウイルス禍の影響と2023年度事業の見通し

1. 寮の運営

- ・2020年から続くコロナの影響で、留学生が激減したことにより、5つの賃貸寮を解約した。今後は留学生数の回復に伴い、寮の不足が予測されるため、留学生の動向を見ながら、新たな寮を展開したい。
- ・コロナの感染拡大が4年目に入り、社会的には、感染予防をしながら活動を元に戻す流れになっている。会館としても、感染が広がらないように対策をしながら、寮生の交流を促進する取り組みを進めていきたい。

2. 宿舎・寮における感染予防対策

- ・会館入口のカウンターに消毒用アルコールを置き、入館時に手指の消毒を行う。
- ・手洗い場にハンドソープを配置。手洗いを励行する。
- ・館内共用部の窓を開放し、換気の良い状態を保つ。
- ・会館入口にサーモカメラを設置し、入館者の体温をチェックすることにより、発熱者を速やかに掌握するだけでなく、体温管理に対する意識を高める。
- ・感染が拡大している間は、館内共用部におけるマスク着用を促す。

3. 寮生のサポート

(1) 体調不良者の対応

- ・発熱や風邪のような症状がある学生は、抗原検査キットで検査をし、陽性となった場合は、陽性者登録センターに登録した上で指定されたホテルまたは自宅で療養する。自宅療養の場合は、寮内での感染拡大を防止するため、トイレ、洗面所、シャワー室は陽性者専用の場所を指定し、キッチンやエレベーターの使用は禁止する。
- ・陽性者が自宅療養中は、職員が毎日体温確認などの健康観察や、市販薬の提供などのサポートを行う。また、感染状況の情報提供や検査キットを活用するなど、寮生の不安を取り除くようサポートする。

(2) 経済的問題への対応

- ・アルバイトや親からの仕送りがなくなったことなどにより、生活に影響が生じていないかどうか、在学先の日本語学校と連携して、早期に掌握しサポートする。

(3) 寮生の状況把握

- ・日本語学校とも連携し、寮生が抱えている問題（健康状態、感染に対する不安、ストレス、経済的な問題等）を掌握し対応する。

イ. 日本語教育事業(令和5年度予算額 66,919 千円)

1983年より始まった日本語教育事業は、宿舎に住む日本人学生や先輩留学生が、大学進学を控えた留学生にボランティアで実施した補習教室がその前身である。留学生にとって希望する勉学、研究を行うには十分な日本語を習得することは必須条件である。

当事業では、留学生が本来の勉学目的を達成できるよう、集中的で密度の濃い日本語教育を実施する。同時に各国の学制の違いや、シラバスの違いから起こる学歴・学力の平準化のため、英語、数学、物理、化学、社会の基礎科目授業も実施する。

日本における大学及び専門学校の受験資格要件では、12年の学校教育修了が求められるが、これらの基礎科目授業を実施する「留学生日本語コース 大学進学準備1年課程および1.5年課程」は、文部科学省より「準備教育課程」の認可を受けており、後期中等教育修了時で学歴が12年に満たない学制の国からの留学生（マレーシア11年など）でも、当課程を修了することにより、不足分の学校教育学歴が補完され、大学及び専門学校の受験資格が付与される。

学校法人ABK学館 ABK学館日本語学校との日本語教育事業部分の統合に向けては、2020年度10月期生よりABK学館日本語学校において進学クラスをスタートさせていたが、協会の収支状況を鑑み、コロナ禍の影響を受け、統合計画がスローペースになっていた。しかし、現在、ABK学館日本語学校において、2025年度4月期生より「準備教育課程」の認可を受けるべく申請準備を始めており、着々と統合に向けて進めている。また、昨年度には、5つの教育課程のうち、2つの教育課程（「専修日本語課程10月コース」、「大学進学日本語課程4月コース」）の閉鎖が完了。なお、閉鎖した教育課程については、前述のとおり、ABK

学館日本語学校へ移行済みである。

2022年度の授業形態は、新型コロナウイルスの水際対策が3月から緩和され、私費外国人留学生も入国することができるようになったが、各学生の査証の発行タイミングが異なっていたため、2022年度4月期の全学生が対面で授業を受けられるようになるまで、昨年度同様、対面とオンラインを合わせたハイブリッドの授業を実施した。6月からは全学生が対面で授業を受けられるようになったが、コロナ禍であることに変わりはなく、新型コロナウイルス陽性と判定され自宅待機となったり、濃厚接触者として自宅待機を余儀なくされた学生で、体調も良好であり、授業に出席したいと希望する学生に対しては、オンラインで授業に参加していただき、ハイブリッドの授業を実施する時期も多々あった。

学内および会館内の施設のインターネット設備については、コロナ禍に入ってから着々とインターネット環境を強化していったので、今年度は学生からの苦情やLANケーブルの貸し出し等はほとんどなかったが、今後、急にオンライン授業に切り替わる事態になることも見据えて、メンテナンスやさらなる改善を進めていく。

会館の建て替え時期が確定するまで、教室や事務所は使用し続けなければならないため、今年度も引き続き最低限のインフラ整備・メンテナンスに力を入れていく。特に各教室のエアコンは古いものと2005年から使用しているため、いつ不具合が生じてもおかしくない状況。コロナ禍の影響で半導体不足が続いており、エアコンもすぐに納品できるわけではないので、早めに買い替えを検討する段階にきている。

● 課程及び修業年限

課 程	入学 期日	修業 年限	入学 定員	ｸﾗｽ数	授業時間数
留学生日本語コース 大学進学準備1年課程 (基礎教科は文科系と理科系に分かれている。また、必修の基礎教科修了後、選択で基礎教科を受講することができる。)	4月	1年	80名	4	40週/年 (必修) 日本語 790時間 日本事情 40時間 基礎教科 120時間 (選択) 基礎教科 136時間
留学生日本語コース 大学進学準備1.5年課程 (基礎教科は文科系と理科系に分かれている。また、必修の基礎教科修了後、選択で基礎教科を受講することができる。)	10月	1.5年	40名	2	60週/1.5年 (必修) 日本語 1,290時間 日本事情 40時間 基礎教科 120時間 (選択) 基礎教科 136時間
大学進学日本語課程10月コース (基礎教科は大学進学準備課程と異なり、全時間数ともに選択科目となっている)	10月	1.5年	40名	2	60週/1.5年 (必修) 日本語 1,290時間 日本事情 40時間 (選択) 基礎教科 256時間

● 学費等

課 程	学費	
留学生日本語コース 大学進学準備1年課程	出願料	20,000円
	入学金	95,000円
	授業料	720,000円
留学生日本語コース 大学進学準備1.5年課程	出願料	20,000円
	入学金	95,000円
	授業料	1,080,000円

大学進学日本語課程 10 月コース	出願料	20,000 円
	入学金	80,000 円
	授業料	1,080,000 円

ウ. アジアセミナー事業(令和 5 年度予算額 0 千円)

● 2023 年度事業について

新型コロナウイルス感染症の影響を勘案しつつ、休止措置を継続するが、終息宣言が出された段階で、休止措置を解除することを検討する。アジア語学コースは 2020 年度に講師と受講生の直接契約による Online 授業体制へ移行しているため、どのような事業展開が可能か、日本語事業とも調整しつつセミナー事業の再開を模索することとする。

エ. 広報事業(令和 5 年度予算額 4,069 千円)

広報誌「アジアの友」は、1968 年 9 月創刊、留学生並びに国際交流関係者をはじめ広く留学生に関する有益な情報を提供するとともに留学生自身や彼らの母国の状況について伝え、日本社会の留学生理解を深めるための啓蒙を行ってきた。同時に国際教育交流の今日的な状況や問題点、留学生の日本社会での経験や意見などをとりあげてきた。本年度も同様な記事を、季刊で発行し、ホームページで公開し一部政府等関係機関等には無料で配布する。

● アジアの友の刊行

広報誌名	発行回数	発行部数	頒布先
アジアの友	4 回/年 (ホームページでの閲覧可)	600 冊/回	大学、国際交流関連財団、地方自治体、会員、個人・法人等

2. 収益事業

国際教育交流の支援に関する事業(令和 5 年度予算額 37,693 千円)

ア 外国人留学生入試、日本留学生活、日本語教育等に関する情報提供

● インターネットによる日本留学情報の提供

海外から日本留学を目指す人たちに日本留学に関するあらゆる情報をスムーズに提供できるような日本留学総合情報サイト「JAPAN STUDY SUPPORT」の構築、運営を行う。

- ・ 同サイトにて大学院、大学学部、短期大学の入試情報、および奨学金情報等のコンテンツを更新。
- ・ 同サイト「ニュース」欄を随時更新。
- ・ 同サイト「外国人留学生のための就職活動案内」、「日本留学案内」等の内容を適宜更新。
- ・ 同サイトの運営はベネッセコーポレーションとの共同運用で行う。

● 出版による大学入試情報の提供

- ・ 日本留学総合情報サイト「JAPAN STUDY SUPPORT」の大学学部データをもとに、書籍『私費外国人留学生のための大学入学案内』を編集、発行する。
- ・ B5 版 約 490 ページ 掲載大学数 約 490 発行部数 1,140 部 価格 2,300 円(税抜き)

イ 大学等からの業務受託

● 大学等からの業務受託

- ・ 大学の外国人留学生入試の願書処理に係る支援業務の受託。
- ・ 外国学修歴の評価業務の受託。

● 新型コロナウイルス禍の影響と 2023 年度事業の見通し

新型コロナウイルスの感染拡大による各国の出入国管理行政の状況次第で、外国人留学生の志願処理件数が影響を受ける可能性がある。

ウ. 国際交流・地域団体等への事務所賃貸、研修室貸与

● 事務所賃貸

- ・ 一般社団法人日タイ経済協力協会、一般社団法人日本百賢アジア研究院、特定非営利活動法人アジアコミュニティーセンター、特定非営利活動法人ベトナム子ども基金など国際交流団体や法人等への事務所の賃貸。

● 研修室貸与

- ・ 研修室貸与にかかる運営体制と人件費を見直し、原則として外部団体への研修室貸与は行わない。

3. 法人(令和5年度予算額 10,529 千円)

● 会員制度

- ・ 公益団体としての認知度を高め、広く個人・諸団体からの支援を得ることを目的とし、会員制度を設けている。

4. その他

新型コロナウイルス感染症も新年度5月には、季節性インフルエンザなどと同じ「第5類」への位置づけに移行される。世界的にもウイズコロナに舵を切っており、将来的に協会並びにABK学館の日本語学校生数も回復が見込まれる。この先、寮の不足が課題となるため、新たに外部寮の展開を行いたい。

以上